

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	一般教養講座		授業形態 / 必・選	講義	必修					
			年次	1 年次						
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	40回 (80単位時間)	年間単位数	5 単位					
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ 企画制作コース/舞台製作コース/PAコース/照明コース/ライブハウスコース/ローディーコース レコーディングコース/P A &レコーディングコース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒									
担当講師 実務経歴										
授業概要										
「コミュニケーション能力」「状況判断能力」「説明能力」の3点をテーマとした講義。										
到達目標										
社会人としての基礎的スキルの習得。										

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	グループワークの基本 状況説明 ・地図、図形、絵の言語化 ・話の整理、要約
【前期】 6～10回目	文章講座 ・「話し言葉」と「書き言葉」 ・日本語の基本構文、5W1H
【前期】 11～15回目	ビジネス文書 ・ビジネスメール ・社内文書
【前期】 16～20回目	ビジネス文書 ・社外文書 ・社交文書
【後期】 21～24回目	コミュニケーション ・概論 ・非言語コミュニケーション ・言語コミュニケーション ・説得的コミュニケーション
【後期】 25～28回目	敬語 ・敬語の種類 ・尊敬語の使い方 ・謙譲語の使い方
【後期】 29～32回目	敬語 ・実践 間違いやすい敬語、仕事でよく使われる敬語
【後期】 33～36回目	心理学講座 ・人の錯覚、思い込み ・自分を知る（心理テスト） ・他者からの影響、社会からの影響 ・自分の長所、他者との関わり方
【後期】 37～40回目	就活に向けて ・音楽に関わる仕事、自分に向いている仕事 ・情報収集について ・履歴書を書く
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	社会に出てから必要とさせるビジネスマナー 恥ずかしくない人間構築を目指しましょう！
使用教科書	随時テキスト配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	エンタテインメント業界基礎講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：13年 商業用レコーディングスタジオに就職し、様々なアーティストのレコーディングに携わった後、フリーランスとして活躍。レコーディングエンジニアとして音楽だけでなく、ナレーション、アフレコ等、多岐に渡る仕事に携わっている。				
授業概要					
挨拶、敬語等の基本的なマナー、各種機材、エンタテインメント業界の知識、および音楽関連の知識の修得。					
到達目標					
社会人として必要なマナーの修得。 自分が扱う機材についての知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	挨拶の重要性・敬語について・学ぶということに関して 情報漏洩の危険性について・コンプライアンスについて・
【前期】 6～10回目	ノートのとり方 デジタルについて インターフェースについて
【前期】 11～15回目	ヘッドホンについてと選び方 スピーカーの役割と必要性 リファレンスについて
【前期】 16～20回目	リバーブの発展と歴史 ディレイの発展と歴史 空間系の総合的な使用法
【後期】 21～24回目	LFOについて モジュレーション系エフェクタについて 歪み系エフェクタの発展と歴史
【後期】 25～28回目	MIDIについて インストゥルメントと使い方の基礎 各種ウェイブフォームについて
【後期】 29～32回目	商業としての音楽について 音楽著作権と各会社の関連について リズムと音符
【後期】 33～36回目	リハーサルマークと曲の構成 略譜面の作り方 音楽制作の問題点
【後期】 37～40回目	記録メディアの発展と歴史 コンピュータ内部のパーツについて Macintoshの歴史とスペックの見方
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	主にレコーディングエンジニア・PAエンジニアの視点から音楽業界についての基礎を学んでいきましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	音楽理論		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA＆レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当	☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経歴：20年以上 大学にてクラシックピアノを学んだ後、ピアニストとして活動を開始。クラシック・ポピュラーミュージック・ジャズ等、ジャンルにとらわれず様々なレコーディングやライブに携わり、海外での演奏も行うなど精力的に活動中。				
授業概要					
五線譜を用意し、自ら音符を書き込む。 五線譜に書いた音符を手拍子等でリズムを表現する。					
到達目標					
音楽の構成を理論的に分析、把握する技術の修得。 楽譜の読み書きが出来る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	音の三要素と音楽の三要素 音律(純音律と平均律)について 変化記号について
【前期】 6～10回目	記譜法 速度、強弱、奏法、省略記号に関する基礎知識 音階について
【前期】 11～15回目	音程について Major triadについて
【前期】 16～20回目	Minor triadについて augment triadについて
【後期】 21～24回目	diminish triadについて 4和音について
【後期】 25～28回目	Major 6thについて minor 6thについて
【後期】 29～32回目	☐ 7 sus4について ☐ 7 (♭5)について
【後期】 33～36回目	diminish 7thについて コードの回転
【後期】 37～40回目	diatonic chordについて リズムトレーニング
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	基本的な楽譜の読解を基礎から学びなおします。エンジニアに必要とされる譜面に対する知識を楽しく学んでいきましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	音響基礎知識		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA＆レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：30年 コロムビアスタジオにてアシスタントを経験し、サウンドスカイスタジオに移籍。その後トーンマイスターにて専属エンジニアとなる。1999年よりフリーランスとなりレコーディングエンジニア、PAエンジニアとして活躍中。				
授業概要					
レコーディング実習Ⅰ・PA実習Ⅰが実践中心の授業であるのに対して、本授業では、スタジオ内の機材ひとつひとつの名称や使用方法等、基礎知識を学ぶ。					
到達目標					
理論的な理解を深め、正しい機材取扱い方法の修得。 物理学的な要素を学び、正しい音響機器の設置方法、音場整理の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	ダイナミック・マイクロフォンの構造について ダイレクト・ボックスについて
【前期】 6～10回目	インピーダンスについて トランスの構造、変圧について
【前期】 11～15回目	楽器の名称及び略記号について イコライザーについて
【前期】 16～20回目	リバーブについて ディレイの応用機
【後期】 21～24回目	ハース効果とは(PAで使用する場合/レコーディングで使用する場合)
【後期】 25～28回目	スピーカーの構造(コーン型/ドーム型)
【後期】 29～32回目	エンクロージャーについて さまざまなチャンネルディバイダー
【後期】 33～36回目	さまざまなメーター コンプレッサー
【後期】 37～40回目	エキスパンダー、ノイズゲート VCAグループとサブグループ
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	講義形式でレコーディングについて、またレコーディングスタジオに設置されている機材について学ぶ授業です。レコーディングスタジオでたくさん機材に触れる時間が確保できるよう、基礎から学んでいきましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ProTools講座 I		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経歴：13年 商業用レコーディングスタジオに就職し、様々なアーティストのレコーディングに携わった後、フリーランスとして活躍。レコーディングエンジニアとして音楽だけでなく、ナレーション、アフレコ等、多岐に渡る仕事に携わっている。				
授業概要					
レコーディングスタジオで円滑にPro Toolsが操作できるよう学習する。					
到達目標					
Pro Tools、ミキシングの基礎技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	DAWについて デジタルレコーディングとは なぜMacintoshが使われているか
【前期】 6～10回目	ProToolsの歴史と発展 SessionFileの取り扱いと構造 サンプリング周波数について
【前期】 11～15回目	ビットレートについて Sessionの立ち上げ方 リネームの方法と必要性
【前期】 16～20回目	フェーダーとパン ソロとミュート 再生系とカウンター
【後期】 21～24回目	リズム楽器とベース音のバランス スピーカーとヘッドホンでのミキシングの注意点 プラグインリバーブの立ち上げ方
【後期】 25～28回目	各種トラックの属性と使い方 TickとSampleの違い ミックスウインドウとエディットウインドウ
【後期】 29～32回目	ツールについて モードについて 分秒と小節拍の使い分け
【後期】 33～36回目	トリムを用いたクリップの処理 フェードとクロスフェード セレクトターと選択範囲
【後期】 37～40回目	ナッチングについて クリップの透過 プレイリストについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	レコーディングに欠かせないPro Toolsを基礎から学びましょう。レコーディングスタジオでは素早いPro Toolsのオペレートが要求されるため、この授業で確実にスキルを身に付けましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	P C 基礎		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：30年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のブレゼン、楽曲とコンテンツ（画像・動画等）を合わせた納品等を行う。				
授業概要					
Macを使用したPCの基本的な操作方法、一般社会で必要とされる代表的なアプリケーションの操作方法について学ぶ。					
到達目標					
Macの基本的な使用方法の修得。 Word、Excel、Illustrator、Photoshopの基本知識、技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	CPU、Memory、HD、パソコンの単位を含めたMacの基本操作方法など説明 学校サーバー接続設定 拡張子の説明、ショートカットの使用方法・メールの送信方法など説明
【前期】 6～10回目	Wordの基本操作、機能の説明、タイピング練習 インデント、タブ機能の説明、図形などの使用方法の説明 Wordを使用してタイピング練習
【前期】 11～15回目	Excelの基本操作、機能の説明 様々なグラフ作り 見積もり書を作成
【前期】 16～20回目	VLOOKUPの説明 VLOOKUPの応用
【後期】 21～24回目	Illustratorの基本操作、ペンツールの基本使用方法の説明（直線） ペンツールの基本使用方法の説明 簡単なトレース作業
【後期】 25～28回目	Illustratorで使用する、その他の機能説明 間取り図を作成
【後期】 29～32回目	地図作り トレース作業
【後期】 33～36回目	Photoshopの基本操作、機能の説明 Vanishing Pointの説明と応用
【後期】 37～40回目	合成課題（電球魚） パノラマ写真、ビルと動く空
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	Word、Excel、Illustrator、Photoshopなどのソフトを学び、効率の良いビジネス文書や書類の作成方法を学びます。PCの基礎から学んでいきますので、PCに触れたことがないという方、安心してください。しっかり基礎からサポートします。一緒に楽しく勉強していきましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	レコーディング実習Ⅰ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	86回（172単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA＆レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：13年 商業用レコーディングスタジオに就職し、様々なアーティストのレコーディングに携わった後、フリーランスとして活躍。レコーディングエンジニアとして音楽だけでなく、ナレーション、アフレコ等、多岐に渡る仕事に携わっている				
授業概要					
レコーディングにおける、プランニング、マイキング、楽器や歌の録り方、ミキシング、マスタリングと一連の流れを学ぶ。					
到達目標					
2年次の技術修得に向けて基礎的な技術力を身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	レコーディングについて レコーディングスタジオについて スタジオの使用上の注意
【前期】 5～12回目	スタジオの構造について・ブースの構造と使い方 信号の流れの基本 Patch盤について
【前期】 13～20回目	マイクの種類と取り扱い(ダイナミックマイク・リボンマイク・コンデンサーマイク・DI等) ケーブルの種類と取り扱い スタンドの種類と取り扱い
【前期】 21～24回目	マシーンルームについて コントロールルームについて
【前期】 25～30回目	電源の入れ方切り方、コンピュータの取り扱い ProToolsの立ち上げ、SessionFileの初期設定 Mixerの構造の基本
【前期】 31～38回目	結線とマイクの置き方、片付け方 マイクチェックについて ProToolsでのトラック作成とルーティング
【後期】 39～54回目	ボーカルのセッティングと注意点 アウトボードのリバーブの取り扱いと信号の流れ Cueボックスの取り扱いとアーティストへの説明の仕方
【後期】 55～70回目	マルチマイクのセッティング時の方法と注意 ボーカルのセッティングと注意点 アウトボードのリバーブの取り扱いと信号の流れ
【後期】 71～86回目	Cueボックスの取り扱いとアーティストへの説明の仕方 マルチマイクのセッティング時の方法と注意 プラグインリバーブのセッティングとルーティング
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	レコーディングの基礎を時間をかけて学んでいきます。反復練習こそ技術を身に付ける上で大切なことですので、積極的に機材に触りましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	レコーディング基礎Ⅰ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	86回（172単位時間）	年間単位数	5 単位
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：13年 商業用レコーディングスタジオに就職し、様々なアーティストのレコーディングに携わった後、フリーランスとして活躍。レコーディングエンジニアとして音楽だけでなく、ナレーション、アフレコ等、多岐に渡る仕事に携わっている。				
授業概要					
レコーディング実習で学んだものを、1つ1つ時間をかけて反復練習をする。					
到達目標					
レコーディング技術の修得およびスピードアップ。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ProToolsの信号の流れとミキサーの信号の流れ トークバックマイクの使用とアーティストとの会話の注意
【前期】 5～12回目	DIについて DIとマイクを同時に収録する際の信号の流れとセッティング 逆DIとReampについて
【前期】 13～20回目	ベースアンプマイクの音の違いと聞き比べ ギターアンプのセッティングと使用時の注意 アンプをブース外で使用する際の信号の流れとセッティング
【前期】 21～30回目	キーボードのセッティングの注意点 ゲイン量とチャンネルフェーダーと録音レベル ニアフィールドモニターの必要性とラージスピーカとの切り替え
【前期】 31～38回目	ドラフティングテープと各機材への書き方、貼り方 イコライザーを用いた音質の補正と音作り コンプレッサーの動作の仕方について
【後期】 39～46回目	生楽器とインストゥルメントプラグインの音のまとめ方 ミキシングについての各種メーターと基準となるレベル バンドレコーディングのセッティングと一日の流れ
【後期】 47～54回目	オーディオのエディットの方法 ミステイクの修正とOKテイクの作り方 ボーカルエディットの今昔
【後期】 55～70回目	ピッチ直しについて 各種ダイナミクスプラグインの効果と使い方 ディレイの効果と使い方
【後期】 71～86回目	録音レベルとルーティング ミックスダウンの手順
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	レコーディング基礎 I では、何度も反復して教わった内容を実践します。できるようになるまで時間をかけて
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	レコーディング実地演習 I		授業形態 / 必・選	演習		必修								
			年次	1 年次										
授業時間	180分 (1単位時間45分)	年間授業数	8回 (32単位時間)	年間単位数	2 単位									
科目設置学科コース	≪音楽芸能スタッフ科≫ レコーディングコース、PA&レコーディングコース													
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐													
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。													
授業概要														
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。														
到達目標														
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。														

授業計画・内容	
1回目	学校法人イーエスピー学園主催イベント①
2回目	レコーディングスタジオ見学
3～7回目	学校法人イーエスピー学園主催イベント②～⑥
8回目	Inter BEE見学
評価方法	平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布